

1 年次報告書の概要

(1) 根拠

いわき市環境基本条例

（年次報告書） 第9条 市長は、環境基本計画に基づき実施された施策の実施状況を明らかにするため、年次報告書を作成し、これを公表しなければならない。

(2) 構成

- 施策の展開（令和6年度の主な取組み内容）
- 環境指標
 - ・ 令和6年度の実績と評価
 - ・ 現状や課題
- 今後の取組み

(3) 環境指標に関する進捗状況の表記及び令和6年度実績

令和6年度における32の環境指標の実績は、資料2 P.3~4を参照してください。

表記	進捗状況の説明	令和6年度実績 (32指標中)
◎	令和6年度の実績値が、目標値（R12年度）を達成している。	6指標
○	令和6年度の実績値が、目標値を達成していないが、年次目標値を達成している。	9指標
△	令和6年度の実績値が、基準値（R1年度）を上回っているが、年次目標値を達成していない。	5指標
×	令和6年度の実績値が、基準値を下回っている。	12指標

(4) その他

本年次報告書は、「いわき市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（=いわき市循環型オフィスづくり行動計画）」の実施状況報告書も兼ねるものとなります。

2 令和6年度年次報告書のポイント

(1) 進捗状況の表記が「◎」となっている環境指標の主なもの

No.	環境指標	単位	実績値 (R5)	実績値 (R6)	年次目標値 (R6)	目標値 (R12)
4	自家用車利用に伴う温室効果ガス排出量	千t-co2/年	309.6	325.4	389.4	389.4
11	産業廃棄物排出量	千t/年	2,799	2,638	3,305	3,294
16	自然体験型イベントの開催数	回/年	40	109	40	50
21	森林ボランティア活動等参加者数	人/年	610	1,092	873	1,000

指標4

「自家用車利用に伴う温室効果ガス排出量」（実績値は令和4年度のもの。）については、自動車保有台数はほぼ横ばいとなっています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因する旅客者数の減少によって、ガソリン等化石燃料の使用量が減少しました。

指標11

「産業廃棄物排出量」については、産業廃棄物の減量化は既に高い水準となっていることから、現状を維持することを目標としています。

指標16

「自然体験型イベントの開催数」については、環境関連団体等が、定期的に自然体験型イベントを開催しました。

指標21

「森林ボランティア活動等参加者数」については、いわき市森林ボランティア活動支援事業の参加者数は前年度に比べて減少していますが、当市で開催された県植樹祭の参加者数が大幅に増となりました。

(2) 進捗状況の表記が「○」となっている環境指標の主なもの

No.	環境指標	単位	実績値 (R5)	実績値 (R6)	年次目標値 (R6)	目標値 (R12)
1	太陽光発電導入量	kW	31,043	32,835	29,928	37,000
8	一人一日当たりのごみ排出量	g/人・日	939	927	963	900
15	野生動植物等調査参加者数	人	4,952	5,526	4,572	7,000
25	汚水処理人口普及率	%	91.1	91.7	90.6	95.6

指標 1

「太陽光発電導入量」については、ゼロカーボンライフスタイル促進補助事業における住宅向け太陽光発電施設の補助により、目標値達成に必要とされる約 1,200kW/年の増加を上回る結果となりました。

指標 8

「一人一日当たりのごみ排出量」については、生ごみ減量や食品ロス削減に向けた周知・啓発、ごみ分別アプリなどを活用したごみの適正排出の啓発等の効果により減少しました。

指標 15

「野生動植物等調査参加者数」については、市内小学校の協力のもと、目標達成に向けて順調に推移しています。生き物調査や生物多様性普及啓発イベントの実施を通して、生物多様性に関する理解の促進、自然とのふれあいの推進など学習機会を創出しました。

指標 25

「汚水処理人口普及率」については、前年度から向上しているものの、全国平均（令和6年度末：93.7%）に比べ依然として低い水準となっています。

(3) 進捗状況の表記が「△」となっている環境指標の主なもの

No.	環境指標	単位	実績値 (R5)	実績値 (R6)	年次目標値 (R6)	目標値 (R12)
3	家庭から排出される市民一人あたりの温室効果ガス排出量	t-co2/年	1.70	1.73	1.59	1.22
26	ISO14001・エコアクション21認証取得事業所数	件/年	92	90	97	110
27	出前講座参加者数	人	2,210	2,333	3,138	5,000
31	市内全体からの温室効果ガス排出量	千t-co2/年	2,447	2,394	2,246	1,527

指標 3・**参考指標 31**

「家庭から排出される市民一人あたりの温室効果ガス排出量」および「市内全体からの温室効果ガス排出量」（両指標とも実績値は令和4年度のもの。）については、家庭における節電行動や省エネ効果の高い製品への買い替え、再エネの導入拡大による電気の二酸化炭素の排出量削減などにより減少しました。引き続き、住宅向けの太陽光発電システムや省エネ機器の普及拡大に努めます。

指標 26

「ISO14001・エコアクション21認証取得事業所数」については、SDGs や ESG 投資の普及等により、今後、環境認証制度が普及すると見込まれ、産業支援機関等と連携した認証取得支援についても検討していく必要があります。

指標 27

「出前講座参加者数」については、減少傾向にありますが、脱炭素に関する関心を高めるため、今後も教育機関や事業者・団体等と連携した取組みを効果的に実施していく必要があります。

(4) 進捗状況の表記が「×」となっている環境指標の主なもの

No.	環境指標	単位	実績値 (R5)	実績値 (R6)	年次目標値 (R6)	目標値 (R12)
5	熱中症搬送患者数	人/年	367	275	207未満	減少を目指す
9	リサイクル率	%	22.3	21.7	22.2	22.0
22	造林事業実施面積	ha	17,313.76	17,511.19	18,527.29	21,093.3
23	大気環境基準達成率	%	88.9	81.0	93.1	100.0

指標 5

「熱中症搬送患者数」については、熱中症による救急搬送人員は、国内で毎年数万人を超え、市内でも、令和5年に過去最多を記録しており、前年度から減少しましたが、令和元年度の基準値を上回る状況となっており、予防に向けた普及啓発がますます重要となっています。

指標 9

「リサイクル率」については、清掃センターから発生する焼却灰の全量リサイクルや製品プラスチックの再商品化などにより維持しました。古紙類回収量の減少により、リサイクル率を向上させることは難しい状況ですが、今後も分別を図る必要があります。

指標 22

「造林事業実施面積」については、森林所有者による森林整備を促進するため、造林事業に対して補助金を交付しており、目標値に対する達成率は低いものの、増加しました。

指標 23

「大気環境基準達成率」については、大気汚染物質の代表的な6項目のうち、光化学オキシダントと浮遊状粒子物質で環境基準を超過しました。その主な原因は、春から夏にかけての南風による関東圏からの移流等が考えられています。